

平成 20 年度

## 「児童・生徒の平和に関する図画作文コンクール」

### 作文の部審査講評

読谷村教育委員長 宮平永金

「児童・生徒の平和に関する図画作文コンクール」の事業の企画、取り組みにより、児童生徒の思考力、表現力を高め、そして沖縄戦を通して平和の大切さ、命の尊さについて真剣に考える機会を与えてくださった関係者に深く感謝を申し上げます。

作文は六十点の応募作品があった。それぞれの作文を読んでもと、児童生徒が沖縄戦や平和への強い関心と、しっかり学習したいという真摯な姿勢で積極的に様々な取り組みをやっている。初めに祖父母の体験談や父母が見聞したことを聞いたり、祖父の戦争体験を家族で追体験している。次に戦争に関する絵本や書籍を読んだり、映像をみたりしている。そして学校での平和学習等を真剣に取り組んでいる。このような学びを通して戦争や平和について自分の考えをはっきりまとめている。そしてその考えを日常生活や学校生活の中に生かして、恒久的な平和な世界を構築していくんだという強い決意に大きな感動を覚える。私たち大人は、児童生徒のこのようなたくましい成長を温かく見守り、純粋な援助を与えなければならないと考える。

今後の改善点（課題）として、四点を述べてみたいと思う。

1. 戦後六十三年が経過し、戦争体験者が少なくなる中、学校教育や地域社会において、平和学習について積極的に取り組み、戦争がもたらす悲惨さを正しく語り、そして継承していく児童生徒を育てる。
2. 社会で起こっている様々な出来事に常に関心を持ち、自分の考えを持つこと。そしてその考えを友達や家族に話したり、記録することの大切さを理解させること。
3. 誤字、脱字、句読点等の原稿用紙の使い方の基本的な指導が必要である。
4. 応募作品の中に「詩」があり、内容的に大変すばらしいものがあつた。次回からは「散文の部」「韻文の部」に分けて募集してはどうか。

審査員：宮平永金、喜屋武洋子、長嶺浩也